

東御市立田中小学校



(1) 学級数 20クラス

(2) 児童数 男子286名 女子286名 計572名

(3) 職員数 40名

(4) 学校紹介

<http://www2.ueda.ne.jp/~tajs/>

東御市の中心部にある田中小学校は、開校110年を越える歴史と伝統のある学校である。校地内には、樹齢百年を超す大木の樺、桜、榎、銀杏など多数あり、緑に囲まれ恵まれた環境である。

学校目標「つよく かしこく あたたく」に向かって、日々、子どもたちと職員が努力している。また、朝・休み時間・放課後は、校庭いっぱい子どもたちが遊んでいる。全校児童による伝統ある「銀杏拾い」の収益金で、児童会予算を生み出したり、中越地震・インドネシア地震などへの寄付をしたりしている。さらに、高学年児童による「吹奏楽部」は県大会・東海大会常連校でもある。

田中小は、これまでも、地域の方に見守っていただき、共に教育活動を進めてきているが、さらに地域の教育力を学校の中に取り込み、共に子どもを育てていきたいと考え、2007年2月から、学校を地域に開放した。いつでも来てくださる地域の方がいる開かれた学校、子どもたちといっしょに遊んでくださったり、いっしょに授



業を受けてくださったりする地域の方々、そんな日常的な関わりをふやしていきたいと考えている。

(5) 大会テーマの受け止めと研究のねらい

本校では、人権同和教育を基盤とした学び合いの授業構成（学級の間人間関係を基盤とした学び合いを授業構成の重点として、子ども同士の学び合いによって、学力差も埋めていこうと考えて実践している。）によって、グループ学習なども行いながら、子ども達がお互いの学びにお互いに責任を持って取り組もうとする姿勢を育てている。また、学び合いを核とした授業での取り組みを通して、自己表現力と相手を受容する力を育てつつある。

このような学び合いは、「広い視野を持ち、新しい文化を築く」ための基礎となり、心豊かな人間の育成につながる考えた。

公開を予定している図工では、「子どもたちが学び合い、つくりあげる喜びを味わう図画工作の支援のあり方 ～子ども同士の対話によって深めていく『対話型鑑賞』の授業を通して～」と研究テーマをすえ、次の点を中心に研究を進めている。

- ① 対話を中心とした鑑賞の授業における、子どもの深まりの姿
- ② 子どもたちの深まりを引き出す教師の対応
- ③ 場の設定の工夫
- ④ 機器の扱い方の工夫

(6) 日常的な活用

① プロジェクターの活用

プロジェクターは、低・中・高学年の廊下に1台ずつおかれ、教室で教材提示用として利用されている。教師用ノートパソコンの画面を拡大して提示することが多く、今回の公開でも、絵画の鑑賞教材を児童に提示するのに利用する。プロジェクターは、液晶テレビと比べると解像度が低く、美的な鑑賞では効果がうすい面もあるが、学級全体に見える大きさにすることが出来る。

② パソコンの活用

現在、パソコンの日常的な活用としては、インターネットの利用が最も多く、国語、社会、総合などの調べ学習で使われている。教師はノートパソコンを児童の成績処理だけでなく、教材研究に活用している。今回の公開では、鑑賞教材をプロジェクターで映し出すのに使うが、児童の要求に応じて、絵画の細部を拡大してみせることが出来る。

(7) 研究を推進してきたの現時点での課題

図工の研究グループでは、「対話型鑑賞」の授業について研究を行ってきた。これは、難しい美術史の知識や専門用語などとは一切関わりのない、鑑賞者の自由な印象を重視した鑑賞のあり方で、「絵を見て、考えて、話す」というシンプルな方法である。

教師が選び出した鑑賞教材をスクリーンに映し出すと、



子どもたちから、その絵の印象が様々な言葉で語られる。一つの発言から、次々に発言が飛び出してくる。お互いの印象の違いを楽しみながら、みんなで交流し、その作品の意味をつくりあげていくのである。

これまでの取り組みの中から、<子どもたちの深まりの姿>として、次のようなことがわかってきた。

- ・ 子ども自身が自然と発言をつないでいく姿
- ・ より細部へと着目していく姿
- ・ 描かれているものを関連づけ意味づけようとする姿
- ・ 友だちの考えを取り入れ、自分の考えを組み立てる姿
- ・ 根拠となる造形要素が多様化していく姿

このような姿につながった<教師の対応>としては、

- ・ 「どこからそう感じたのか」具体的に指摘させること
- ・ 中心部分ではないように思われるところでも、子どもたちの中から問いが生まれたり、考えが分かれたりしたら、ていねいに取り上げて追究すること
- ・ 必要に応じて動作化を取り入れるなど、子どもの感覚や経験とつなぐための働きかけをすること

<場の設定の工夫>としては、次のような点を考えている。

- ・ 鑑賞教材の提示の順序
- ・ スクリーンを中心に、子どもも教師も座って語り合う
- ・ 学習カードによる振り返り

今後、<機器の扱い方の工夫>などをふくめ、さらに研究を深めたい。

